



NEWS RELEASE

平成 20 年 11 月 5 日

関係各位

伊藤ハム株式会社
広報・IR部

第 1 回調査対策委員会議事内容の件

11 月 4 日に開催しました今回の不祥事に関する調査対策委員会につきまして、下記の通り議事内容をお知らせします。

記

第 1 回調査対策委員会議事

1. 日 時：平成 20 年 11 月 4 日 13:30 ~ 15:45

2. 場 所：ウェステインホテル東京 B 1 棟の間

3. 出席者： 委員長 藤巻 正生 委員長代理 沖谷 明紘
 委員 伊与 亨 委員 川合 弘造
 委員 蒲生 恵美 委員 横山 理雄 (敬称略、順不同)

4. 議 事： 1) 経緯の説明

 一般の事件における一連のアクション及び水質検査結果を時系列で説明
 行政への報告について時系列で説明
 その他、井戸の配置、構造の説明

2) 今後の課題と進め方

 水に関する問題

 水質の履歴確認

 東京工場における過去の水質検査結果を把握することにより、東京工場の地下水の水質の安全性を評価する材料のひとつとする。

 NaClO 処理の副生物の問題

 次亜塩素酸 Na 添加処理において、二次的に副生物(塩化シアン)がどのくらいの濃度で生成するか否かを検証する。そのために東京工場での水処理施設の運転条件を把握し、解析を行う。

 原水の測定を継続的に実施

 各井戸 (No,1、No,2、No3) の水質検査 (シアン化物イオン及び塩化シアン、塩素酸) を毎日検査し、状況を把握する。

 土地の由来 (購入先、状況)

東京工場の土地がどのような問題を孕んでいるか、周辺の環境(種々の施設の存在履歴、地質学的データ等)過去の情報を収集し、問題点を洗い出す。

管理体制に関する問題

管理体制/モニタリング体制

今後、同種の事故が再発しないよう地下水の処理における管理体制(水質のモニタリング体制も含む)を精査し、再構築が必要である。

報告体制の問題

今般の問題は、地下水の異常データを把握しながら、組織の報告ルートを通して情報があがらなかったことが重要な問題のひとつである。現状のルールを解析し、「問題の発生しない仕組みの構築」と「従業員への周知徹底」が必要である。

報道内容のチェック/お客様からのご意見の解析

今般の問題を社会がどう受け止めているかを「報道内容」と「お客様からのご意見」の2つの面から解析し、当社の今後の企業姿勢に反映させてゆく。

5. 次回予定：11月11日(火)14:00～ 場所：東京工場
11月18日(火)14:00～ 場所：目黒事務所